とよおか 農委だより

No.45
2020. 3

農業委員会活動3年間を振り返って …… 2―3P
頑張ってます！農地利用最適化推進活動 …… 4P
特集　伝統農産物・特産農産物の紹介 …… 5P
賃借料情報・遊休農地パトロール結果 …… 6P
きばっとんなる人らぁ …… 7P

新しい農業委員会制度の下、農業委員と新設された農地利用最適化推進委員でこの三年間の活動を振り返って

地域の話し合いの中心に　農業委員会

豊岡市農業委員会会長
森井　脩

遊休農地の発生防止・解消、担い手への農地の集積・集約化など、農地利用の最適化等が課せられた最も重要な任務とされる中で、何をどうするのか模索しながらの三年であったと思います。

豊岡市の農業と農地を巡る状況は、農地の荒廃、担い手不足、鳥獣被害など深刻な問題・課題は共通していても、地域によってその実情は様々です。現場に足を運び、見て、意見を聞いて考えることが最も大切だと考え、農業委員と推進委員が連携して活動してきました。まだ課題が多くありますが、農業委員会は地域の中で着実にその役割を果たしてきていると思います。

農業生産の基盤である農地をこれ以上減らさず有効活用を進めるために、認定農業者を中心とした担い手に集約し効率的な経営の確立を推進すると共に、特に中山間地に多い、担い手に集約しきれない農地について考えるとき、小規模農家、兼業農家、半農半Xなど多様な農業の担い手も大切だと思います。

また、農地に付随する水路や農道を大規模農家だけで維持管理するのは困難です。集落あるいは集落を超えた地域での話し合いを一層深化させ、地域の将来を見据えた方策を見い出していくことが今求められています。農業委員会はその推進役を担う組織と考えています。

終わりに、豊岡市の農業と農業者の皆様がより発展することを祈念すると共に、地域で活躍する委員の皆様のご協力に感謝申し上げ、ご挨拶とします。

研修会の様子

農地の適正な維持管理に向けて

会長職務代理者兼農地対策委員長
大原博幸

農地の利用集積の推進、遊休農地の解消、担い手の育成、人・農地プラン作成支援、農政に対する意見書提出、農業者年金の加入促進、食農教育の推進等、多様な業務に取り組み、これらは委員各位のご尽力により一定の成果が得られたと思います。

また、農地の権利移転や農地転用などについても現地調査を行い、法に基づき厳正な審査を行ってきました。

豊岡市は、安全、安心でおいしい食料の生産を目指し、環境と経済が共鳴する農業を推進し、健全な農地を維持、保全していこうとしています。

しかし、農業や農地を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。「ぽつんと一軒家」のような状況を生み出さないためにも、農業委員会の果たす役割は、なお一層大きくなっていくように思われます。

最後になりましたが、この三年間委員各位のご支援とご協力により、職責を全うすることができました。心から感謝するとともにお礼申し上げます。

農地利用の最適化に向けて

会長職務代理者兼
農地利用最適化推進委員長
村田憲夫

会長職務代理者兼農地利用最適化推進委員長の大役を受け早や三年が経過しようとしてます。

当初、推進委員の仕事は明確になっていたが、地域ごとの状況が異なること、引継ぎ方法も様々で、各推進委員が困惑することもあり、委員長として対応に追われました。

その中で、初めに取り組んだことは、農家の方々に顔を覚えて頂くため、農会長会議等、地域の会議に積極的に出席し、農業委員会活動の紹介と同時に、農地のことなら何でも気軽に相談できる委員会にと心がけ、活動を行って来ました。

さらに、推進委員と農業委員とが「集落等営農意向調査」を実施し、「守るべき農地の範囲」、「地域の農地の現状と課題」等を調査票に基づき、農会長等にお聞きし、結果を基本情報としてまとめ、次期への引継ぎ資料としてバトンを渡せるようになりました。

しかしながら、一方で、「農業委員会って何を行っているの？」、「必要ないのでは？」、などの話を聞くと、まだまだ、農業委員会の活動について、発信していく必要があると感じています。

最後に、三年間を振り返り、委員の皆様と一緒に活動できた事と、地域の皆様のご協力に感謝し御礼申し上げます。

委員の活動により耕作再開された農地

地域ぐるみで農地管理を

農地利用最適化推進委員　井上　孝

三年間の活動を通じて、感じたことは、今後、今まで以上に遊休農地の増加が憂慮されます。

以前は、隣接する農家の方に耕作を依頼すれば、引き受けて頂くことができましたが、それも高齢化や作業環境を理由に、引き受け手が見つかりません。

担い手への集積・集約についても、まとまった面積、水利の利便性の確保が前提となります。

まず、集落内での中心的農家、農会、地区役員等の関係者で、「どのようにして農地を守っていくのか」を話し合う必要があります。

その上で、地域ぐるみでの取り組みが求められてきていることを視野に入れ、担い手、新規参入者のための面積確保、規模拡大へと繋がっていくことを期待しています。

豊岡市農業委員会の女性農業委員が出品したレシピ「大根餃子」が全国第2位に輝きました！

豊岡市農業委員会の女性農業委員３名（加悦富美恵・原清美・高尾利美委員）が「葉も皮も捨てるとこなし！ヘルシー大根餃子」を令和元年度全国農業委員会女性協議会ベストレシピグランプリに兵庫県代表として出品し、標記の成績を収めました。

このレシピは、農業委員会の活動の一環として行っている食農教育の中で、市内の認定こども園で作られたメニューです。

興味をお持ちの方は、インターネットで「葉も皮も捨てるとこなし！ヘルシー大根餃子」でご検索ください。

農業資材の総合卸

種苗、農薬、肥料
ビニールハウス
その他農園芸資材

人と土と命をはぐくむ企業
株式会社 ユー・エス・メイト
●本 社 〒668-0871 兵庫県豊岡市梶原420-1
TEL 0796-22-2165㈹　FAX 0796-24-4437
TEL 0796-23-3500
●八鹿支店 〒667-0024 兵庫県養父市八鹿町朝倉下台121-1
TEL 079-662-2144㈹　FAX 079-662-7395

頑張ってます！農地利用最適化推進活動　No.7

中筋地区（豊岡地域）

中筋地区は、豊岡地域の南部に位置しており、稲作と合わせ豊岡の野菜生産地として発展し、昔は女性が荷車に取れたての野菜を積み、街へ売りに行く風景も見られました。

さて、当地区の一番の利点は、平坦地が多いこと、水源の確保が充実していることです。

歴史をたどれば、円山川水系の土居井堰には、東側に「新川水路」、西側には「蓼川水路」があり、「新川水路」は、隣接の新田地区の農地まで水の供給を行っています。出石川の下をくぐらせてサイフォンで下流地区へ送るなど重機も資材も少ない時代に造られたもので、先人の知恵と努力に頭が下がる思いです。

我々には、次の世代に継承する義務があると感じています。

現在、活動をしている中で感じたことは、農地パトロール時に、作付されていない農地が想像以上に多く見られること、又その事実を知らない人が多いことです。

今後、農業者の高齢化、後継者問題は益々、加速してくるでしょう。

しかしながら、当地域においての農業従事者は、大規模農家と、近年各地域において集落営農組合が発足され、農地の維持管理の面で明るい兆しが見えてきています。

また、「加陽の朝市」、「水辺公園の水曜市」などがあり、幅広い年齢層の方が、野菜づくりに取り組んでおられ、活気づいています。

私も農地利用最適化推進委員として、地区の方々と情報共有し、農地保全においてお役に立つよう努力していきたいと思っております。

（推進委員　池畑　一己）

農地パトロールの様子

池畑推進委員
中筋地区

西沢農業委員
中筋・八条・豊岡地区

三方地区（日高地域）

三方地区は、豊岡市の南西部に位置し、地区内は十六集落あります。農地は、平坦部と四つの谷に沿った中山間部に約三百ヘクタール程あります。

知見営農組合では、地区内だけでなく、担い手の少ない隣接集落の農地も耕作されており、委託された集落も、畦畔の草刈等を手伝う「応援隊」を結成され、相互協力し、農地保全されています。

別の集落では、農家・非農家に関係なく、農業用施設や農道の補修・維持管理に取り組んでおられます。

しかし、一方では営農組織会員の高齢化、農機具の維持管理費の負担増、採算が合わない等の理由で、組織の存続が難しいところ、補助事業を受けていても、事務処理が負担となり、事業継続が困難になり、結果、農地の維持管理ができないところもあります。

昨年、『みかたデザイン会議』が設置され、コミュニティ会長を中心に約一〇名の委員で、地域課題の解決を検討しています。

農業分野でもアンケートを実施し、結果をもとに意見交換を行う予定です。

農地パトロールで発見された遊休農地については、農業委員と協力し、２つの取組みをしています。

一つ目は、地元の「たまゆりの会」から依頼を受けた、「ソラマメ栽培」、二つ目は、今年から、地元の小学校にも呼びかけ、植付けから加工まで取組む計画がある、「ヒョウタン栽培」です。

これらの取組みは、遊休農地の解消のみならず、特産品を模索するきっかけとなり、地域の活性化に繋がればと考えています。

今後も、農家・地域の皆さんとともに、地域農業・農地を守っていけるように努力していきますので、ご協力をお願いします。

（推進委員　水嶋　明彦）

水嶋推進委員
三方地区

宮口農業委員
三方地区

立派に実ったヒョウタン

特集　伝統農産物・特産農産物の紹介　Part 6

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等を皆さんに知ってもらい地域農業の振興に役立ててもらうため、平成28年度にマップを作成しました。(No.36農委だより)特集で農産物等を紹介していきたいと思います。今回は**“三原の干し大根”**と**“八代の原木シイタケ”**です。

三原の干し大根

ドクターヘリの発着場になっている旧三原小学校グラウンドを舗装してほしい、という区民の声がきっかけでした。兵庫県の『がんばる地域』応援事業に応募し、舗装に加え、雨漏りしており、活用が進んでいなかった旧小学校校舎（サントピアあすなろ）の改修が進められることとなり、本事業の活用の中で、特産品の開発も位置付けられました。

その一つにと考えているのが「干し大根」です。

雪深い山奥に位置する三原区では、かつて、「干し筍」、「ぜんまい」とともに貴重な保存食として「干し大根」が、どの家庭でも作られていました。

技術の向上や交通網の整備により、保存食はすたれ、現在は懐かしの食材となってきています。

旧校舎の2階に干された大根

特産品の開発にあたって、比較的流通の少ない「割り干し大根」を作ることにしました。

作り方は、

①大根を縦に八等分位に切る。

②①の大根に紐を通す。

③風通しの良い箇所でつるす

です。

一度に大量に干す場所が必要となるため、旧校舎の二階の窓を開けて干しています。

初めはうまくいかず、黒く見栄えの良くないものもありました。

現在は、「たこさんの干し大根」と名付け、地域の行事で販売したり、体験交流活動での昼食時におもてなしの一品としています。

これからも試行錯誤しながら、いいものを作って欲しいと思います。

（農業委員　加悦　富美恵）

三原の「干し大根」

八代の原木シイタケ

日高町八代にお住いの小林和嗣（つぐ）さんは昭和四十四年にシイタケ栽培を始められ、現在まで五十年間奥さんと二人でシイタケ栽培一筋に取り組んでこられました。

始めた頃は、日高の特産品として一〇数戸の生産者が頑張っておられましたが、高齢化によりほとんどの農家が辞められました。現在の生産者は小林さん一人となってしまわれました。

少し生産規模を縮小されましたが、それでも九〇〇〇本を管理されています。

植菌した原木も四年経つとシイタケが出ません。毎年新しく山から二〇〇〇本分の原木を切り出して、一本ずつ植菌し、それを山に運んで並べるまでのほとんどを手作業で行うため大変な重労働です。

山に並べられたシイタケの原木

春と秋が収穫のメインで、特に春の収穫が一番多く、ピーク時には毎日大変な作業です。

栽培で一番気を遣うのは、シイタケを乾燥する時で、上質なシイタケに仕上がるまで目が離せないとのこと。

今年の冬は雪もなく植菌作業が捗り有難いが、冬にしっかり雪が降らないと、春シイタケの発生が落ち込み、減収になってしまいます。

自然に左右されながら、また自然の恩恵を受けながら五十年続けてこられました。

これからも夫婦二人で身体の続く限り、シイタケを作り続けてください。

（農業委員　田中　直喜）

原木シイタケ

農地の賃借料情報

2019年1月から12月までに締結(公告)された賃貸借（借賃が有料のもの）における賃借料水準(10ａ当たり)は、以下のとおりです。

2020年2月25日　　豊岡市農業委員会

■田（水稲）

締結(公告)された地域名	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	抽出筆数 (借賃が有料のもの)	使用貸借筆数 (借賃が無料のもの)
豊岡地域（旧豊岡市）	9,700	17,200	6,000	109	577
城崎地域(旧城崎町)	－	－	－	－	－
竹野地域(旧竹野町)	7,200	7,200	7,200	14	35
日高地域(旧日高町)	8,300	12,300	3,000	177	299
出石地域(旧出石町)	7,700	12,300	3,000	389	271
但東地域(旧但東町)	6,200	10,000	3,000	20	57
(参考)豊岡市全域平均	8,100			709	1,239

【この表の見方】
1 抽出筆数は、賃借権が設定されたもののうち、標準的な賃借料を算出するため、全体の平均値±70％を超えるものを除いています。
2 借賃を現物で定めている場合は、60kg当たり14,400円で換算しています。
3 平均額は、算出結果を四捨五入し、100円単位としています。
4 参考のために使用貸借（借賃が無料のもの）の筆数もお知らせします。
5 畑については事例が少ないため算出していません。
6 この金額は、あくまで情報提供ですので、これを目安に圃場条件等を考慮し、当事者間で十分協議して決めてください。

2019年度　遊休農地パトロール結果

〔2019年12月末現在〕

（単位：㎡）

	2018年度遊休農地	増　加	減　少	2019年度遊休農地
豊岡	58,836	92,835	1,899	149,772
城崎	40,728	0	56	40,672
竹野	187,628	12,480	10,386	189,722
日高	255,762	14,941	29,712	240,991
出石	168,425	37,868	29,782	176,511
但東	119,991	13,329	2,789	130,531
合計	831,370	171,453	74,624	928,199

※「増加」は不耕作耕地や1年以上管理されていない農地で、「減少」は耕作再開、自己保全などで解消したものと非農地判断を実施したもの
(非農地判断した農地は、25,136㎡)

農業委員会では、重要業務の一つとして農地の利用調整、遊休農地の発生防止・解消活動を行っています。耕作できなくなった農地があれば、お早めに地元の農業委員・農地利用最適化推進委員にご相談ください。

農機のことならJAへ

たじま農業協同組合
農機センター
養父市八鹿町朝倉1141
TEL079－662－3817

たじまに生きる
たじまを活かす
JAたじま

きばっとんなる人らぁ㊷

このコーナーでは、
地域で頑張るみなさんを紹介します。

新しい発想で農業の夢を叶える

新田 拡樹さん（中郷）

新田さん

新田さんは、繁殖和牛経営農家で現在、親牛50頭、子牛30頭を飼育しています。

拡樹さんが和牛飼育を始めようとしたきっかけは、父の義孝さんが、平成2年、7頭から始められており、それに加え、以前から家族みんなで仕事ができたらいいなと思っていたことと、日本がTPP（環太平洋パートナーシップ）協定に参加したことで、生産者は輸入品との競争激化に直面し、農業を取り巻く情勢が厳しくなってきていますが、それが和牛農家にとっては逆にチャンスだと感じたためでした。

始めた当初、苦労したのは、資金繰りでした。年中休みが無いのは覚悟していたけれど、思った以上に大変だったとのことです。

仲間やグループ活動により得られる情報の大切さも感じました。

今後、自分の経営でこだわっていきたいことは、まず省力化と効率化、IT等を経営に積極的に取り入れて、牛飼いの技術を磨いていきたいと話されていました。

ここ数年、子牛の相場価格は、高値で推移しています。3月には子牛７頭を販売する予定ですので、高値で売れるといいですね。

農業経営での夢は、ヨーロッパで行われているような小規模で家族経営することだそうです。牛飼いには休日はないけれど幸せはいっぱいあると思いますので夢にむかって頑張って下さい。

（農業委員　田中 直喜）

牛舎の様子

次世代へつなぐバトン

㈱坪口農事未来研究所
代表取締役　平峰 英子さん（三宅）

昭和50年頃、父が業として農業を始め、休みなく一生懸命に働く両親を見て、「農業って大変だ」、「結婚するなら会社員がいい」と子供ながらに思っていました。その後、義理の兄が後を継いでくれたものの、思わぬ病気で早くに亡くなってしまい、急遽、平峰さんが団体職員を辞め引き継ぐ事になったのが６年前の事になるそうです。

継承した際には、周囲の心無い言葉に悩むこともありましたが、それ以上に色々な方々に助けられ、助言をいただき、今日に至ることができました。

この数年で人という宝物をたくさん頂くことができ、とても感謝しています。

豊岡市の取り組みである「コウノトリ野生復帰事業」を誇りに、地域の農地を守り、次世代へしっかりとバトンを繋ぐために平成31年4月に㈱坪口農事未来研究所として法人化し、儲かる農業、強い農業経営を試行錯誤しているところです。

父から義理の兄に繋がった農業、今思えば大変な反面、とても楽しんでいたように思います。私たちも楽しみながら次世代へ繋ぐ農業、未来の地域農業を考えて行く必要があると考えておられるとのことです。

これからも頑張っていって下さい。

（農業委員　村田 憲夫）

トラクターで耕うん中の平峰さん

表紙について　豊岡のイチゴ

但馬の冬は、低温、低日照という不利な条件ですが、ハウスで生産されるイチゴの旬は、12月下旬から、翌年の2月中旬頃と言われています。

開花後、低温ということで着色まで日数を要します。この間に味がのって甘いイチゴへと仕上がります。

ハウス内という密閉された空間で栽培されているため、受粉はミツバチの力を借り、味・大きさの決め手は、灌水・追肥の頻度と摘果による着果数の制限が重要なカギを握ります。以前は宝交早生という品種でしたが、時代とともに、とよのか・章姫・紅ほっぺ・かおり野と変遷していき、大粒で甘酸のバランスのとれた品種が好まれています。

（農業委員　宮岡 正則）

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊（毎週金曜日発行）　月 700円
（送料、消費税込）

＊お申し込みは
農業委員会事務局または、地元の農業委員・推進委員まで

編集後記

新元号『令和』には、穏やかで平和な時代になってほしいという思いが込められているそうです。令和二年はまさに、とても穏やかで暖かい年明けとなりました。

一月のある日、冬期湛水の田んぼの傍らで見かけた二羽のコウノトリも、平穏な日々を願っているかのようでした。

近頃足腰の衰えを感じ、ウォーキングを始めました。近所を歩きながら眺める田園風景には心癒されます。しかしその一方で、親から子へと当たり前のように受け継がれてきた農地が、今、存続の危機にあります。

このかけがえのない農地を守り、次代へ繋ぐことは私達の責務です。そのために何をすべきか、一人一人が今一度考え、知恵を出し合って、行動を起こすことが大切だと思います。

（編集委員長　齋藤 善久）

農業委員会だより第45号は私たちが担当しました。
後列左から　加悦富美恵、齋藤善久、村田憲夫
前列左から　宮口豊隆、田中直喜、宮岡正則

発行日／令和2年(2020)3月25日(年間3回発行)
通巻45号　編集発行／豊岡市農業委員会
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号豊岡市役所2階
☎0796-21-9021　FAX0796-24-8114(2F共通)
「農業委員会だより」と「農業共済だより」は共同印刷により同一発行としています

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。